

ニセコの主役アジア富裕層に

アソク

国内有数の国際スキーリゾートである北海道・ニセコで、外国人客の構成比に変化が起きている。パウダースノーにいち早く目をつけ、世界的リゾートになる原動力となったオーストラリア（豪州）人に代わり、近年は中国などアジアからの旅行者が急増。アジアを中心とした富裕層向けの超高級施設の進出が相次ぎ、観光地の景色は変わりつつある。

「十数年前と比べるとアジア系が増えている」と話すのは、ホテル「ザ・グリーンリーフ・ニセコビレッジ」の松田秋彦支配人。同ホテルと近隣施設では、月によっては客の3割超が中国人ということもある。高級施設ではさらにアジア系の比率が高く「カサラ・ニセコビレッジ・タウンハウス」では、宿泊客の8割がアジアからだ。富裕層を当て込んで、ニセコでは宿泊施設の高級化が進む。

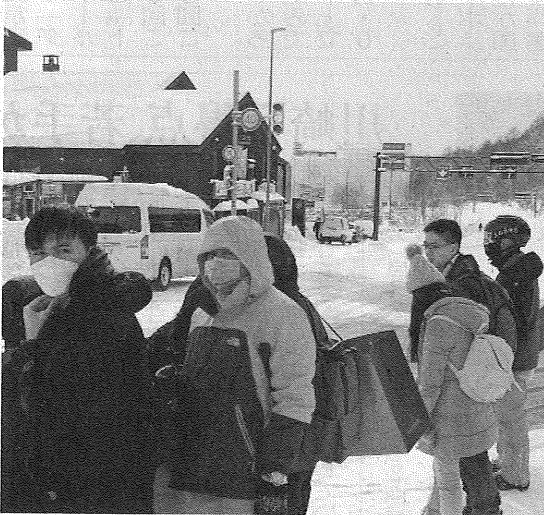
高級化進み豪州人比率急減

2020年にハイアットの

の最上級宿泊施設「パークハイアット ニセコHANAZONO」が開業。23年には東南アジアなどで高級リゾートを展開するアマンリゾートの別荘建設も計画されるなど、富裕層を主な顧客層とする有名ブランドが目白押しだ。

18年の倶知安町の外国人宿泊者数（延べ人数）は09年の3倍近い46万4千人。このうちアジア系は09年の4・4倍の24万9千人に急増している。一方、豪州かと、09年は16万7千人のうちの旅行者は11万6千人で、伸び率は26%だった。1990年代まで、ニセコの観光客の大半は日本人だった。しかし、バブル過ぎなかつた。

18年の倶知安町の外国人宿泊者数（延べ人数）は09年の3倍近い46万4千人。このうちアジア系は09年の4・4倍の24万9千人に急増している。一方、豪州かと、09年は16万7千人のうちの旅行者は11万6千人で、伸び率は26%だった。1990年代まで、ニセコの観光客の大半は日本人だった。しかし、バブル過ぎなかつた。



ニセコではアジア系の観光客が増えている

济の崩壊で日本人客が減ると、倶知安町の観光入り込み客数は130万人まで落ち込んだ。かつてニセコのスキー場を訪れていた豪州からの旅行者らは今、長野県の白馬や富良野など北海道内の他のスキー場に流れているという。ニセコで外国人を誘客するスキーリゾートラ

ベル（倶知安町）の條々克己さんは「ニセコは高級化が進み同じコンディションなら他の場所でもいい、という声がある」と漏らす。冬場の観光客の8割を外国人が占めるニセコは日本らしさに欠けるとの指摘もある。

これに対し、倶知安町観光課の沼田尚也係長は「観光客がいろいろな国から来ているので問題ない」と話す。中国で発生した新型コロナウイルスや、日韓関係の悪化による韓国人観光客の激減に苦しむ全国の観光地を横目に、多国籍化が進んだニセコは、国際問題の影響が最小限にとどまっている面もある。

倶知安町は次期の「観光地マスタープラン」に海外のスキーリゾートを参考にした開発規制の目標値を盛り込み、行きすぎた開発を抑える考えだ。観光客を無制限に増やすのではなく、質の高いリゾート造りを進める。目指しているのは「日本の観光地の一步先を行く世界水準のスキーリゾート」だ。

（荒川信一）